

2.2 上位計画・関連計画における堺臨海部の今後の方向性

国、大阪府、堺市が大阪湾、府営港湾、市域を対象に策定した上位計画及び関連計画における堺臨海部の位置づけは以下のとおりです。

2.2.1 堺市マスタープランにおける位置づけ

「堺市マスタープラン さかい未来・夢コンパス～自由と創造の海をめざして～」において「子育てのまち堺・命のつながりへの挑戦!」、「歴史文化のまち堺・魅力創造への挑戦!」、「匠の技が生きるまち堺・低炭素社会への挑戦!」の3つの挑戦を掲げています。



図 3つの挑戦



図 政策・施策・事業の体系

都市空間形成の方向性として、Ⅰ：活力あふれる都市空間の形成、Ⅱ：居住魅力あふれる都市空間の形成、Ⅲ：環境と共生する都市空間の形成、Ⅳ：安全で安心して暮らせる都市空間の形成、によりまちづくりを進めていくこととしており、めざすべき都市の構造として、

- 都心では、「商業・業務・行政・文化・居住など複合的な都市機能の集積を図るとともに、地域の歴史・文化資源を活かした集客・交流機能の向上に加え、趣の感じられる都市景観を形成し、国内外から人が集まり、賑わい交流できる拠点づくりを進める。」
- 臨海都市拠点では、「環境関連産業や物流機能等の集積により世界をリードする産業拠点の形成を図るとともに、海辺の特性を活かした商業・集客機能や親水・自然空間の整備、スポーツや健康づくりの場の創出や、公共交通の利便性の向上等により、人・モノ・情報の集まる拠点の形成を図る。」



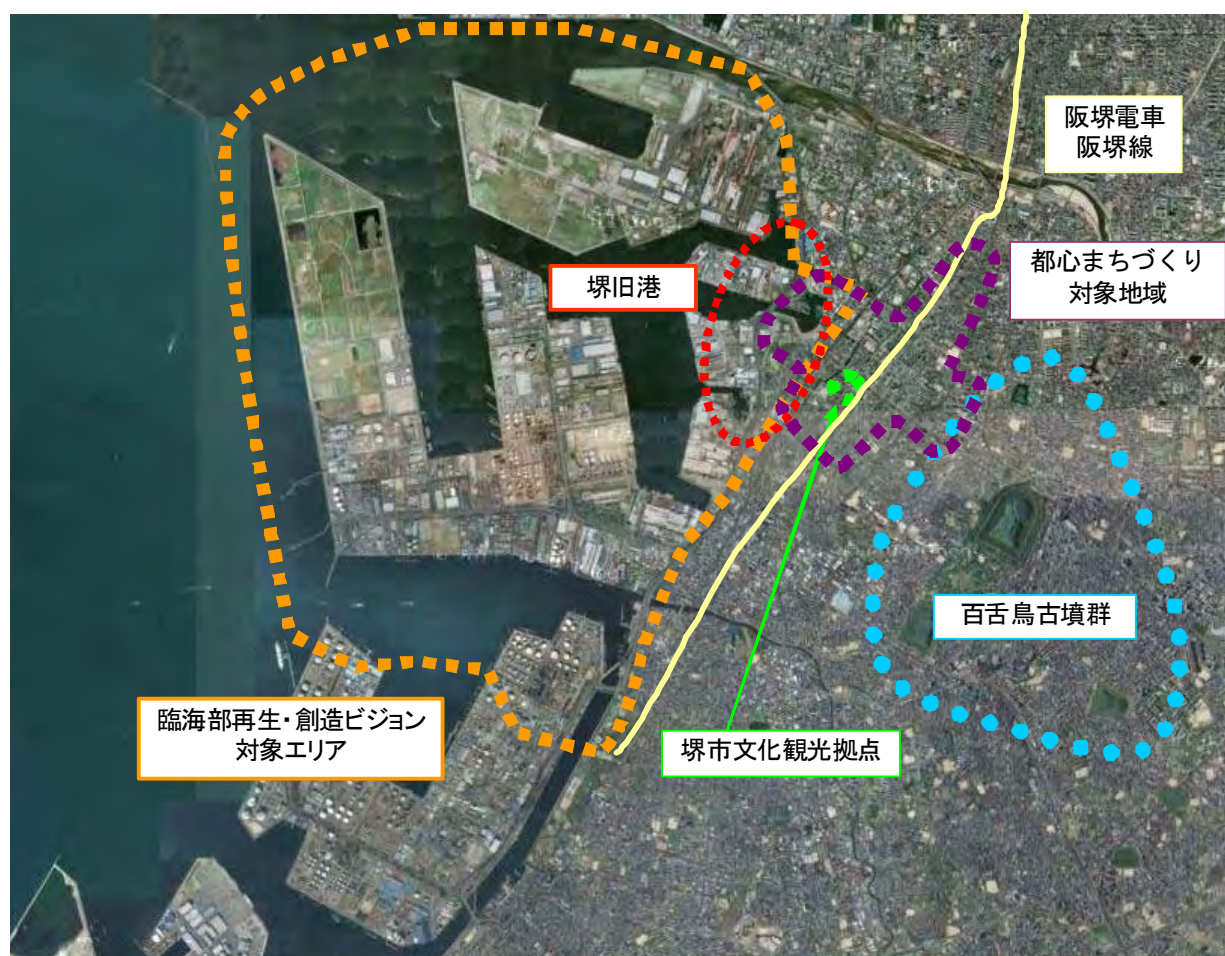
図 都市拠点と交流ネットワーク

こととしています。また、

- 堺旧港については、「堺東周辺地域と並ぶ都心地域の核であり、世界に開かれた観光インバウンド・国際交流等の玄関口として、商業・業務・居住機能を集積・強化するとともに、賑わいづくりなどにより、集客・交流機能を向上させる。」
- 堺第 7-3 区については、環境共生の重点推進エリアとして「南部丘陵の豊富な緑・里山環境を保全するとともに、臨海部の産業廃棄物処分場跡地の「共生の森」に新たな緑の拠点を創出することで、本市都心部を挟む丘陵地と臨海部に、涼しさと安らぎを創出する大規模な緑の拠点クールダムを形成する。」

こととしています。

さらに、堺市マスタープランにおける施策のうち、観光分野では文化観光拠点整備・世界文化遺産登録への取組み等、まちづくり分野では都心地域まちづくり、路面電車活性化・総合交通体系推進・自転車走行環境整備・緑の保全・創出、良好な景観形成、下水再生水利用等、環境面では環境教育・研究、人材育成、クールシティ堺の推進等の市の施策との連携を考慮していく必要があります。



※航空写真は大阪府より提供

図 ビジョンの対象区域と関連する市の主な主要施策との位置関係

2.2.2 上位計画・関連計画における位置づけ

上位計画・関連計画から見た堺臨海部の今後の方向性を「社会活動」、「生活環境」、「自然環境」、「地球環境問題」の4つの観点から整理しました。

表 主な上位計画・関連計画の策定主体及び年次

上位計画・関連計画	策定主体	時期
関西シリコンベイ構想	国土交通省近畿地方整備局	平成 17 年 9 月
将来ビジョン・大阪	大阪府	平成 20 年 12 月
大阪府景観計画	大阪府	平成 20 年 10 月
大阪府営港湾長期構想 あすぽーと 21	大阪府	平成 17 年 6 月
大阪湾再生行動計画	大阪湾再生推進会議	平成 16 年 3 月
みどりの大阪推進計画	大阪府	平成 21 年 12 月

(1) 社会活動の観点から見た今後の方向性

上位計画・関連計画において示されている、社会活動の観点から見た今後の方向性は、「**多様な人々に魅力が感じられる総合的な交流・レクリエーションの場の創出**」、「**地域独特の歴史・文化・景観を活用した魅力ある空間の創出**」です。

表 社会活動の観点から見た今後の方向性

今後の方向性	上位計画・関連計画
- 多様な人々に‘潤い’を与える臨海部空間の創出 - インナーハーバーや外航旅客船バース等を中心としたにぎわい空間と一体的に、国内だけでなく海外も視野に入れた観光産業の誘致の検討 - 広域集客性の高いウォーターフロント型商業機能の充実	関西シリコンベイ構想
近隣府県との連携等を通じた多様なプロモーションによる国内外の観光集客	将来ビジョン・大阪
良好な都市景観やレクリエーションの場の創出	大阪府景観計画
- 海辺で憩い、楽しみ、海と触れ合える魅力的な水辺空間の整備 - 商業やレクリエーション・環境学習など多様な機能を兼ね備えた総合的な港湾空間の形成 - 観光資源としての魅力向上と遊覧ネットワークの構築	あすぽーと 21
陸域の汚濁負荷量の削減、海域の浄化対策など、海の水質改善を図り、多様な生物が生息する健全な生態系を回復し、美しく親しみやすい水環境となるよう、森・川・海のネットワークを通じて総合的な取組みを推進	大阪湾再生行動計画
- 埋もれた歴史・文化を発見・発掘する - 歴史的・文化的資源を活用し、暮らしに息づく観光スタイルや文化交流の場を創造する - 生涯を通じて、いきいき過ごせるまちをつくる	堺区まちづくりビジョン
- まちへの思いを活かしにぎわい・文化をつくる - 歴史文化を守り育て活用する - 人の交流と拠点のつながりをつくる	西区まちづくりビジョン

(2) 生活環境の観点から見た今後の方向性

上位計画・関連計画において示されている、社会活動の観点から見た今後の方向性は、「**魅力ある親水空間の創出**」です。

表 生活環境の観点から見た今後の方向性

今後の方向性	上位計画・関連計画
・ 多様な人々に「潤い」を与える臨海部空間の創出	関西シリコンベイ構想
・ 海辺で憩い、楽しみ、海と触れ合える魅力的な水辺空間の整備 ・ 商業やレクリエーション・環境学習など多様な機能を兼ね備えた総合的な港湾空間の形成	あすぽーと 21
・ 陸域の汚濁負荷量の削減、海域の浄化対策など、海の水質改善を図り、多様な生物が生息する健全な生態系を回復し、美しく親しみやすい水環境となるよう、森・川・海のネットワークを通じて総合的な取組みを推進	大阪湾再生行動計画
・ 花と緑の美しいまちづくりの輪を結ぶ ・ 堺区らしい魅力ある景観をつくる	堺区まちづくりビジョン
・ 水や緑の自然資源を有効に活かす	西区まちづくりビジョン

(3) 自然環境の観点から見た今後の方向性

上位計画・関連計画において示されている、社会活動の観点から見た今後の方向性は以下のとおりであり、「**水質改善による水辺環境の向上**」、「**臨海部での人々の憩いの場を確保、海や森にふれ合える場の確保**」が掲げられています。

表 自然環境の観点から見た今後の方向性

今後の方向性	上位計画・関連計画
・ 広域集客性の高いウォーターフロント型商業機能の充実 ・ 水と緑が共生する新しい憩いの空間づくり	関西シリコンベイ構想
・ 彩りある森づくりや大阪湾の干潟再生等、生物多様性が確保できる豊かな自然環境の保全	将来ビジョン・大阪
・ 陸域の汚濁負荷量の削減、海域の浄化対策など、海の水質改善を図り、多様な生物が生息する健全な生態系を回復し、美しく親しみやすい水環境となるよう、森・川・海のネットワークを通じて総合的な取組みを図る	大阪湾再生行動計画
・ 長い海岸線を有することから、多様な海岸環境の保全、回復と、これらの利用拠点としての公園緑地の拡充を図る	みどりの大阪推進計画
・ 海辺で憩い、楽しみ、海と触れ合える魅力的な水辺空間の整備	あすぽーと 21
・ 清潔で環境にやさしいまちづくりを進める	堺区まちづくりビジョン
・ 水や緑の自然資源を有効に活かす	西区まちづくりビジョン

(4) 地球環境問題の観点から見た今後の方向性

上位計画・関連計画において示されている、社会活動の観点から見た今後の方向性は、「**ヒートアイランド・地球温暖化等への対応**」、「**再生可能エネルギーの積極的な導入**」、「**NP0や各種団体と連携した自然学習や環境学習の推進による人材育成**」です。

表 地球環境問題の観点から見た今後の方向性

今後の方向性	上位計画・関連計画
・ 臨海部の‘森’等を活用したエコトーン形成による生態系循環システムの再生 ・ 港湾施設の改良時における環境共生機能の積極的導入等の取組み ・ CO₂削減のため、大阪湾において、クリーンエネルギーのみで全エネルギーを賄い、廃棄物を区外に出さない「ゼロエミッション住居区」を設置し、社会実験を行うなどの先導的な取組み	関西シリコンベイ構想
・ 水とみどり豊かな新エネルギー都市大阪	将来ビジョン・大阪
・ NP0や各種団体と連携した自然学習や環境学習の推進による人材育成	大阪湾再生行動計画
・ 環境負荷の軽減や文化の継承に配慮しつつ、憩い・にぎわいのある、生き物にやさしいみなとづくり	あすぽーと 21
・ 地域、世代、性別を超えた多様なつながりを結ぶ	堺区まちづくりビジョン
・ まちの子育て環境を整備する ・ 様々な人や団体の連携を強化する	西区まちづくりビジョン

2.2.3 上位計画・関連計画における堺臨海部の今後の方向性のまとめ

以上より、上位計画・関連計画における堺臨海部の今後の方向性は、以下のとおりです。

表 上位計画・関連計画における堺臨海部の今後の方向性のまとめ

観点	上位計画・関連計画における堺臨海部の今後の方向性
社会活動	・ 多様な人々に魅力が感じられる総合的な交流・レクリエーションの場の創出 ・ 地域独特の歴史・文化・景観を活用した魅力ある空間の創出
生活環境	・ 魅力ある親水空間の創出
自然環境	・ 水質改善による水辺環境の向上 ・ 臨海部での人々の憩いの場を確保、海や森にふれ合える場の確保
地球環境問題対応	・ ヒートアイランド・地球温暖化等への対応 ・ 再生可能エネルギーの積極的な導入 ・ NP0 や各種団体と連携した自然学習や環境学習の推進による人材育成

2.3 市民・NPO・各種団体等のニーズ

2.3.1 アンケート・ヒアリング等から得られたニーズ

市民や小学生・臨海部立地企業へのアンケート、NPO や関係団体へのヒアリング等から得られたニーズは以下のとおりです。

表 市民・NPO・各種団体等のニーズ（1／3）

対象	市民・NPO・各種団体等のニーズ														
市民 （臨海部のまちづくりの満足度や方向性） 平成 23 年 2 月 市政モニター アンケートより	<現状の評価> ・ 広大な土地を官民一体となって整備し有効利用している。 ・ 自然に親しむことができる。 ・ J-GREEN 堺、商業施設の整備により賑わいを創出している。 ・ 臨海部での新たなまちづくりについて現状の評価としては、約 5 割の市民がよいと評価している。 <将来の要望> ・ 交通の便が悪く公共交通網を充実させるべきである。 ・ 臨海部は工業地帯のため空気が悪く、改善が必要である。 ・ クルージングのイベント等も開催されているが、海や川が汚いため改善すべきである。 ・ 自然と触れ合うことができる場所の整備は今後も推進すべきである。 ・ 積極的に水辺に親しめる場所の整備は今後も推進すべきである。 ・ アミューズメント施設、スポーツ施設等の魅力のある施設の整備は今後も推進すべきである。 ・ 歴史文化を利用した魅力あるまちをつくる必要がある。 ・ 家族連れで参加できるお祭りやイベントを定期的に行うべきである。 ・ 自転車を中心とした交通を考えるべきである。 ・ まちづくりをしていることについてPR不足である。 臨海部での新たなまちづくりの評価 <table border="1"> <caption>臨海部での新たなまちづくりの評価</caption> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よい</td> <td>35.0%</td> </tr> <tr> <td>どちらかといえばよい</td> <td>32.2%</td> </tr> <tr> <td>どちらかといえばよくない</td> <td>11.8%</td> </tr> <tr> <td>たいへんよい</td> <td>15.9%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>3.3%</td> </tr> <tr> <td>よくない</td> <td>1.8%</td> </tr> </tbody> </table> n=491	評価	割合	よい	35.0%	どちらかといえばよい	32.2%	どちらかといえばよくない	11.8%	たいへんよい	15.9%	無回答	3.3%	よくない	1.8%
評価	割合														
よい	35.0%														
どちらかといえばよい	32.2%														
どちらかといえばよくない	11.8%														
たいへんよい	15.9%														
無回答	3.3%														
よくない	1.8%														
「市民の声」に寄せられた要望	<将来の要望> ・ 海づり公園整備に係る要望 ・ 臨海部への交通アクセス改善に係る要望 ・ 堺浜の海岸復元、活性化、自転車レース・工場見学の実施提案 ・ 堺浜「海とのふれあい広場」のドッグラン・バーベキューの施設改善要望 ・ 堺旧港の旧堺燈台と大浜公園の一体管理に係る要望														

表 市民・NPO・各種団体等のニーズ（２／３）

対象	市民・NPO・各種団体等のニーズ
小学生 平成 23 年 7 月 市内小学生ア ンケートより	＜現状の評価＞ - かつての大浜や浜寺の海辺で海水浴や潮干狩りで楽しんでいたこと、大浜がリゾート地であったことの認知度は低い。 - 工場群が立ち並んでいる、または公園緑地のイメージを持っている児童が多い。 - 浜寺公園に行ったことのある児童は半数以上であるが、堺第 7-3 区や海との触れ合い広場、J-GREEN 堺、堺旧港周辺へ行ったことのある児童は少ない。 ＜将来の要望＞ - 津波がくるかもしれないので不安。 - 海辺での花火、コンサートなどのイベントをもっとやってほしい。 - 海の水をきれいに、ゴミをなくしてほしい。 - ショッピングやレストラン、ゲームセンターなどのお店を作してほしい。 - 海に入って遊ぶことができる砂浜を作してほしい。 - 海の水をきれいに、ゴミをなくしてほしい。 (n=245) 設問：「堺市の海辺について、将来どのようなになればいいと思いますか？」 (n=245) 設問：「あなたは、今の堺の海辺は、どのような場所だと思いますか」

表 市民・NPO・各種団体等のニーズ（3／3）

対象	市民・NPO・各種団体等のニーズ
臨海部でまちづくり、植栽、生物・水質調査、環境学習、清掃活動等を展開する NPO・市民団体 平成 23 年 7～8 月 ヒアリングより	・ 市民・NPO 活動できる場所や仕組みを提供して欲しい。 ・ 堺旧港は堺駅とのアクセスが悪く、堺浜は市街地から遠い。陸だけでなく海からのアクセスも面白い。 ・ 堺駅と堺旧港内の回遊性を向上させ、また水質改善を行い、親水性を高めることが重要である。 ・ 小学生が海や生き物と触れ合う体験が情操教育に良い。 ・ 釣り人や家族連れが安全で気軽に楽しめる場所が必要である。 ・ 利用者のマナーが悪く、ゴミが多い。 ・ 稚魚育成等のため浅場・干潟などを河口等に整備すれば効果がある。 ・ ヒートアイランド対策の緑化をもっと進めるべきである。 ・ 大和川河口域には生物が豊富に生息しており、生物多様性の観点から環境の保護が必要である。
関係団体（漁業関係団体、自治会組織） 平成 23 年 7～8 月 ヒアリングより	・ 堺旧港においては、人を呼び込む仕掛けをつくることが重要である。 ・ 堺第 7-3 区からの橋を整備する等、交通アクセスを改善して欲しい。 ・ 大和川沿いに自転車道を整備して欲しい。 ・ ゴミの清掃やヘドロの浚渫等で、水質環境を改善させる必要がある。 ・ 人工干潟や生物共生護岸は生物にとっていい、一部分でもこうした整備は必要。 ・ 臨海部は中心部から離れているため、アクセス性の向上や、全体を睨んだ一体的な整備が必要である。 ・ 環境学習など今後も積極的に開催していきたい。
臨海部立地企業 平成 23 年 7～8 月 立地企業アンケートより	・ 交通インフラの整備をして欲しい。市内を東西に結ぶアクセスが良くないため、駅等から臨海部が遠い。 ・ ゴミのポイ捨てが多く、清掃活動をしても追いつかない。 ・ 未利用地の活用や環境改善・保全活動には期待している。 ・ 臨海部に親水公園、遊歩道、サイクリングロード、緑地の整備等を望む。 ・ 未利用地で巨大イベントで活性化を図ることが必要である。